

NUFS Workshop 2012

*Newsletter No. 11***Final Presentation**

Date: March 30, 2013, 14:00-16:30

March 31, 2013, 9:00-12:00

Venue: Conference room at XIV Toba

The number of participants: 12

Advisors: Nancy Mutoh, Kazuyoshi Sato (NUFS),
Robert Croker (Nanzan University)

Abstract: Each action research group member made their final presentation on their action research. They reported what they did, what happened, what they learned, future issues and so on.

**Comments from the participants****1. What do you think of the action research project you have participated in this school year?****Did it help you to improve your teaching skills?**

- はい、大いに自分のためになりました。Speaking Test が入れられたのもARをやっていたからで、佐藤先生はじめARのメンバーをいつも意識していたからできたのだと思います。また、ネットワークもありすぐほしい資料が手に入るのも大変良いです。
- とても役立ちました。AR をやっていなかったら、毎日の授業を振り返り、試行錯誤しなかったと思います。参加者の方からのアドバイスもとても役立ちました。
- 半期しかできなかつたせいもありますが、先輩方のように1年、あるいは複数年にわたって継続していけるような研究テーマの設定が難しいです。5月のテーマ設定の段階では、リサーチ方法も十分に把握できていないので難しいです。
- 訳読一辺倒にならない reading の授業をどうしたら運営できるかを学ぶことができました。

2. How was a monthly report and presentation?

- 大学院の授業の一つとして参加していた。毎月大変だったが何とかすべて終えることができた。定期考査や学校行事など授業数が限られており、発表が難しいと感じることもあった。
- AR は1年目で先輩方の模倣を行なっていました。まだまだ自分のものになっていません。プレゼンは、乏しい英語力ということもあり、上手く出来ませんでした。もっと練習、工夫をしなければと思います。しかし、毎回多くのアドバイスをいただき、とても助かりました。
- 毎月の実践報告について、参加者である現場の先生方やスーパーバイザーからの的確な助言をいただき、すぐにその後の指導に活かすことができた。

3. How do you feel of a monthly workshop? Did you learn any good ideas from the instructor?**Which one(s) did you like the best? What kinds of topics do you want for future workshops?**

- 毎月新しいトピックで楽しかった。プレゼンテーションのワークショップが参加型で面白かった。多読のものも興味がある内容だったので印象に残っている。新指導要領に対応し科目の教え方と評価方法、特に

パフォーマンステストの理想的な実施方法と、評価基準の統一など評価について知りたい。

- 高橋恵子先生の workshop がよかったです。クラスの中でディベートをどのように運営したら良いか学ぶことができました。
- ワークショップは大好きで、唯一の英語で研修できる場でした。プレゼンテーションの仕方・高橋恵子先生始め、すべての方から授業へのヒント・アドバイスをいただきました。いつもリフレッシュでき活力をいただきました。今後は、①リサーチの取り方②脳科学・認知などについてのワークショップを希望します。
- 毎月のワークショップは新しい知識・情報の宝庫であると感じた。講義形式で聞くのではなく、実際に生徒の立場として体験できることはとても貴重な経験である。「この指導法は、自分の授業ではこんな風に活かそうかな...」と体験しながら考える場として最高である。「プレゼンテーション」についてのワークショップで体験し学んだ内容は、「目からうろこ」であり感動体験であった。
- Tom Kenny の conversation strategies の回がよかったです。中学校にも行かせる小技をいろいろ学ぶことができました。2月の最後の speech についてのワークショップもよかったです。翌週、学校でさっそく実践してみました。

4. How can we improve this action research project? Please write your comment/advice.

- アクションリサーチに最後まで取り組んだのは、単位として必要な人と、TESOL 卒業生だけでした。年々学校行事が週末に入ってきているので、時間的な制約もあり、土日両日に参加するのは大変なので、年3回の宿泊ワークショップが、近場で日帰り参加ができる場所でもいいのか、と思います。初めて参加される人から「お昼ご飯はどうするのか」「参加申し込みはどうすればいいか」「すべて英語で行われるのか」「自分の英語力についていけるのか」「持ち物は?」「どんな人が参加しているのか」など質問をされた。よく読めば HP に載っていることもあるが、知りたい情報だけ素早く知ることができるように、素朴な疑問に答えるような Q&A を HP に載せるなどしてはどうか。
- 3月のアクションリサーチのまとめの研修会は、月末(30日、31日)だと新年度の準備と重なり、心理的な圧迫感を感じました。できることなら、昨年度までのように、25日、26日のほうが参加者が増えるのではないのでしょうか。4月1日から始まる新年度の準備はストレスですから...。
- いつも現場の教員が、気持ちよく参加できるように運営していただいて、本当に感謝しています。忙しかったり、体調が悪くて、皆勤でなくても参加できる雰囲気の良さと、英語教育について先生方と真剣に研究協議したり、情報交換できる雰囲気の良さが本当に貴重な機会となっています。この雰囲気の良さが継続されることを願っています。
- 4月当初に続けたいと思うことが大事で、正直にいうと今では顔みしりの先生もできましたが、来た当初は周りの先生がみんな知り合いみたいで、声もかけてもらえず、部外者という感じでした。なので前年から来ている先生と4月当初は隣同士に座ってもらったりランチと一緒に食べるなど意識して関係づくりをした方がよいと思います。また、初めての人を前から来ている人に紹介するのも大切だと思います。
- 私たちの実践にあったところを探すのは難しいかもしれませんが、一度日本人で中学や高校の教師の間で著名な人を招くと、新規の方を集めるきっかけになるのではと思いました。それからワークショップを、昼食をまたがないで、午後に固めた方がいいかと思います。

Thank you for your cooperation to NUFSS Workshop 2012. I hope you will also participate in NUFSS Workshop 2013.